

Halu 農法協働オーナーズクラブ入会案内(概要)

はじめに

無肥料・無農薬栽培である Halu 農法を学び、実践することによって健康的で栄養価の高い作物を協働で作るクラブです。自然農法である Halu 農法は誰にでも実践できるものですが、ひとりで簡単にできるという訳ではありません。そこで参加メンバーが、技術指導を受けながら協力し合うことによって、無理なく楽しく自然農法で作物づくりに取り組むことができるクラブです。

肥料も農薬も使わない Halu 農法の畑ではいろいろな生き物が増えてくるとともに、野菜だけではなく様々な食べられる野草も育って来ます。そのようなところに身を置いておくだけで気分がよくなって来ますが、このような豊かな農園をメンバーが力を合わせて作り上げることを目指します。

このような菜園が広がって行くと現在わが国の「食」が抱えている様々な問題 が解決される糸口につながって行く可能性があります。まず第一にわが国の食料自給率はカロリーベースで 37% (2018 年) しかありません。災害、紛争、経済危機などが発生した場合、私たちの食べものはどうなるでしょうか。さらに マスメディアではあまり報道されていませんが、海外では使用が禁止、あるいは 制限されている農薬が慣行農法では当たり前のように使われています。わが国は農薬使用大国なのです。さらに TPP や日米貿易交渉の結果、輸入農産物の農薬残留基準値が大幅に緩和されるなどしており、安心して食べられる安全な食べ物は自分たちで作るしかないような状況になって来ています。

悪性リンパ腫を発症させると、海外ではたいへん大きな問題となっている除草剤のラウンドアップ。その耐性遺伝子組み換え食品の輸入をロシアは 2014 年に禁止しました。その年にロシアのメドベージェフ首相はインタビューに「アメリカ人が GMO 作物を食べたいなら、彼らに食べさせればいい。私たちロシアは GMO を必要としない。我々は有機農産物を作るだけの十分な広さと機会 がある」と答えています。

都市住民の大半が集合住宅に住むロシアの人たちは<ダーチャ>という住まい付きの本格的な自家菜園を郊外に持っています。<ダーチャ>は平均で 600 m²の広さがあり、ほぼ 1 年分の食料を自給自足しているそうです。そして自家菜園で体に悪いものを使って食べ物を作る人はいません。ロシア国内 3400 万世帯の 8 割が<ダーチャ>などの菜園を持ち、ジャガイモの国内生産の 9 割、野菜の 8 割が自給されています。

そんな国の首相であるからこそ、前述のような発言がメドベージェフ首相にはできたの

ではないでしょうか。もしわが国に広く存在している耕作放棄地（2017年で38.6万ヘクタール）が、＜ダーチャ＞のような本格的な自家菜園になるならば、食に対する不安が大幅に減少するのではないのでしょうか。Halu 農法協働オーナーズクラブがその先頭に立つことができるならこれほどすばらしいことはありません。

Halu 農法協働オーナーズクラブ概要

（場所）

・農業技術研究所歩屋本社農場（千葉県我孫子市中峠＜なかびょう＞）駐車場、仮設トイレ、水場完備。

※農場図面は別紙参照

（運営方法）

・歩屋本社農場のうち約 5,300 m²をオーナーズクラブ会員による協働運営区画とします。
・歩屋本社農場のうち約 500 m²は、オーナーズクラブ会員の個人運営区画とします。家庭菜園として利用できる区画なので、どんな作物でも思い思いに作付けしていただけます。
・協働運営部分は、オーナーズクラブ会員による営農会議を毎月 1 回（第 4 日曜日）開催して、大まかな作業内容を話し合います。それをもとに具体的な作業を農業技術研究所歩屋が決定します。作業スケジュール表はインターネット上に表示されます。会員はその作業スケジュール表の中から参加できるものを選んで作業にあたり、終了後作業報告書を提出していただきます。

作業内容としては、

- 1 草刈り、2 耕起（耕うん）、3 育苗、4 マルチ、5 播種・定植、6 収穫、7 出荷、8 片付け、9 採種などがあります。

（その他）

・農場内にキャンプサイトを設置し、生態系豊かな居心地のよい場所でアウトドアを楽しむように計画しています。簡易研修所（我孫子市布佐一車で 7 ～ 8 分）を利用できるように計画しています。

以下略